

平成29年度 玄海みらい学園 学校評価計画

資料1

1 学園教育目標 みらいへの挑戦 ～Go forward～	2 本年度の重点目標 ①あいさつと歌声が響く学校づくりの推進 ②生徒理解に基づいた生徒指導の実践と自主・自立の気概のある児童生徒の育成の推進 ③義務教育学校の特性を活かし、全職員が目指す方向性を理解し、取り組む学校づくりの推進
-------------------------------------	--

3 目標・評価

① あいさつと歌声が響く学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動 ○母校の語りづくり	挨拶と歌声が響く学校	・行事等で「効果を大きな声で歌う」児童生徒の割合が80%以上を目指す。 ・自ら「元気よく挨拶をする児童生徒の割合が80%以上を目指す。	・全校集会や児童生徒集会では児童生徒が前に立って自分たちで校歌を歌う場面を取り入れる。 ・挨拶について児童生徒会と連携し、自分たちのめあてを決め実践させる。	・Q-Rテストや生活アンケートを通して、人間関係を把握し、いじめの早期発見・早期対応を進めること。 ・人権集会や全校集会等で人権に応じた指導電話をするとともに、発達段階に応じた指導を実践する。	特別活動部	藤浦鶴田
教育活動 ○生徒指導の充実	共感的な生徒理解に基づいた生徒指導の実践	・教育相談や日常の児童生徒との触れ合いを通して、教師と気溝を相談できるようになる。 ・家庭の車による送り迎えを減らし、自転車や歩いて登校する児童生徒の割合を95%にする。	・定期的な教育相談や生活アンケートを実施し、児童生徒の変化に対応する。 ・不登校対策委員会を通して、不登校の情報共有と解決に向けた方策を検討する。 ・生徒指導連絡会を通して、学年だけではなくステージや全校で情報を共有する。	・活動の開始前に必ず立腰をさせ、意識を持たせ、全職員で一致して取り組む。 ・スクールバスの利用方法についてPTAや教育委員会と連携し、上下校時に歩くことや自転車登校を推進する。	生活部 松岡松本	佐伯永野
② 生徒理解に基づいた生徒指導の実践と自主・自立の気概ある児童生徒の育成の推進						
教育活動 ○特別支援教育の推進	教員の意識の高揚と連携強化	・特別支援に關注する研修会を実施し、教員の専門性が高まったと感じる割合を90%以上にする。	・特別支援教育コーディネーターを中心とした年3回の研修会を実施する。 ・ケース会議を開き、個別の対応を具体的に検討する。	・古藤石塚	支援部	古藤石塚
教育活動 ●健康・体づくり	体力の向上	・立腰の意義の理解と啓発を行い、正しい姿勢で学習に取り組む児童生徒の割合を80%以上にする。 ・家族の車による送り迎えを減らし、自転車や歩いて登校する児童生徒の割合を95%にする。	・活動の開始前に必ず立腰をさせ、意識を持たせ、全職員で一致して取り組む。 ・スクールバスの利用方法についてPTAや教育委員会と連携し、上下校時に歩くことや自転車登校を推進する。	保育部 宗島	保育部	宗島
③ 義務教育学校の特性を活かし、全職員が目指す方向性を理解し、取り組む学校づくりの推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営 ○学校経営基本方針	学園教育目標の周知	・児童生徒、保護者、地域への教育目標の周知を図り、認知度を80%以上にする。	・全校集会、PTA総会等で教育目標について説明するとともに、学校だよりや連絡メール等に常に掲載することにより目に触れる機会を増やす。周知を図る。 ・学校、学年、学級により定期的に更新発行と学校ホームページを増やす。	・玄海タイム(毎日のドリル学習の時間)やITを効果的に活用し、個別の支援を充実させることにより、基本の定着を図る。	総務部	佐伯永野
教育活動 ●学力の向上	基礎・基本の定着を図る	・12月調査において、県平均に対する値を4月調査より3ポイント上回る。 ・家庭学習の習慣化と自主学習の内容の充実を図る。	・自主学習ノートNew Friendsを有効的に活用し、よい事例を紹介し、各児童生徒の内容を充実させる。	・体育大会や文化発表会等の行事を通じて他学年と交流する機会を作る。 ・他国の生徒との交流を通して、異文化に触れる体験をさせる。	学習部 山口野田	山口野田
教育活動 ●心の教育	望ましい集団作り	・異学年・異文化との交流を通して思いやりの心を育てる。	・系統的・構断的なカリキュラムを作成し、学年に応じた内容を実践する。 ・学んだことを発表する機会を作り、情報発信することで、学ぶ力を育てる。	・授業を講師として授業を実践し、地域との連携を深める。	特別活動部 藤浦鶴田	佐伯岩瀬
教育活動 ○海洋教育の推進	主体的に学び、積極的に発信できる児童生徒の育成	・海に関する学習を通して、総合的な学びを深め、積極的に表現する力を育成する。	・生活科、社会科、総合的な学習の時間において、地域の方を活用した授業を積極的に実施する。	・授業参観、学校行事等において保護者だけでなく地域の方にも参観を呼びかけ学校の状況を観てもらう機会を作成する。	総務部	佐伯永野
学校運営 ○開かれた学校づくり	保護者や地域の方々の学校行事や学校運営への参加促進	・保護者や地域の方々の学校行事や学校運営への参加促進	・児童生徒の安全を守る取り組みの徹底	・児童生徒の安全意識を高める。 ・保護者や地域と連携した取り組みによる危機管理意識の高揚。	学習部 山口野田	山口野田
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動 ○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	ICTを活用した授業の実践	・関心意欲を高めるだけでなく、理解を深める活用の推進。 ・研修を通して、活用できると感じる職員を100%にする。	・電子黒板を活用し、学習への関心意欲を高めるとともに、基礎基本の定着を図る。	・ICT支援員を活用し、全職員の活用力を高める研修会を実施する。	学習部	山口野田
学校運営 ○危機管理	児童生徒の安全を守る取り組みの徹底	・児童生徒の安全意識を高める。	・地域、高等学校、関係機関等と連携し、避難訓練を年3回実施する。	・日常における危機回避のための危険個所等について、親子で確認したり、防災について話し合う機会を作成する。	総務部	佐伯永野

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目